

！連続講座 + 「映画としての音楽」アンコール上映！

# 映画以内、映画以後、映画辺境 2

小沼純一×大谷能生×吉田広明×荻野洋一×七里圭

2015年1月28日水曜／2月13日金曜

もう映画ではいられない？

# 映画以内、映画以後、映画辺境2

「映画が“映画のようなもの”にすり替わっているような気がする」という私のあいまいな違和感から始った、この連続講座。2ndシーズンでは、「変わってきてているのは映画ではなく私たちの方かもしれない、だとしたら…？」という切り口で進めて参りました。イメージがイメージを自己増殖するようなデジタル=ソーシャル環境で、見えるもの、聞こえるものの表現はどうなっている／いくのか。後半戦も多彩なゲストとともに、映画と私たちのリアルの変容について考えていきます。うう、大変…。(七里)

## 第七回

■ 小沼純一（音楽文化研究・批評家・詩人）× 吉田広明（映画批評）× 七里圭（映画監督）

### 「彼女の声が響くのは、そこに彼女がいるからとは限らない」

～デュラスはサウンドトラックと映像をどのように考えていたか？～

小説家であり、声（音）と姿（映像）の表現の極北を行く映画作家でもあったマルグリット・デュラス。目にしている空間（現在）と、語られている内容（過去）が混じり合い、今そのものでも過去そのものでもない時空間が開かれてゆく彼女的小説＝映画的時空間を分析することで、サイバー環境が蔓延した今日的なリアルへの指標を探る。

■ 2015年1月28日水曜 20時開演

## 第八回

■ 大谷能生（批評家・音楽家）× 萩野洋一（映像演出・映画評論）× 七里圭（映画監督）

### 「のぞき穴を見ている人に聞こえるリアルな音って、何？」

～リュミエールからエジソンへ揺れる映画史を再起動する～

声や音楽ではなく、物音はいつ映画に合流したのか？ 縦長スクリーンがいまだに定着しない理由はあるのか？ リュミエール／エジソンという映画の二つの傾きに立ち戻って、歴史の盲点を検証しつつ、20世紀に進展した視聴覚の分断／再統合の意味と現在の変容について考える。

■ 2015年2月13日金曜 20時開演

連続講座に合わせて2回限りのアンコール上映！

まだ目覚めぬ映画を呼び起こす、声と響き。

## 映画としての音楽

[Screening Version]

監修：七里圭 テキスト：日夏耿之介訳 「院曲徹羅米」（オスカー・ワイルド作「サロメ」）

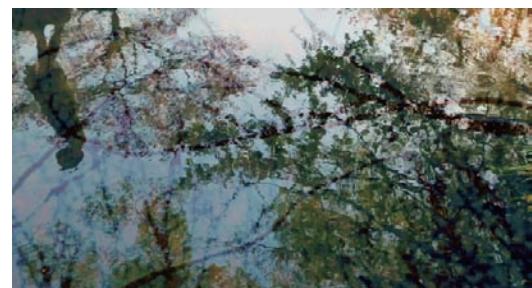
音楽：池田拓実、さとうじゅんこ、徳久ウィリアム、山崎阿弥、sei、山形育弘、古賀彰吾、今藤哲平、長宗我部陽子、船屋法水 他  
(2014年 56分 HD)



同時上映

To the light 2.1 (international version)

監督／七里圭 撮影／高橋哲也 音楽／池田拓実 人形／清水真理 出演／古賀彰吾  
(2014年 14分 HD)



<http://keishichiri.com.jp/>

■ 1月28日水曜＆2月13日金曜 各日〈講座の前〉18時開映

〔料金〕 講座（第七回／第八回）各回￥1,200（税込）  
上映（映画としての音楽 + To the light 2.1）￥1,500（税込）  
セット料金（上映 + 講座）￥2,000（税込）

〔開場〕 講座は開演の30分前、上映は開演の10分前に開場します。

主催：charm point 助成：アーツカウンシル東京（公益財團法人東京都歴史文化財団）ARTS COUNCIL TOKYO

UPLINK FACTORY

東京都渋谷区宇田川町37-18 トツネビル1F  
tel.03-6825-5503 <http://www.uplink.co.jp>

予告！

2015年3月27日、28日  
新作「サロメの娘（仮題）」  
アーツモニウム上演@両国門戸ホール